

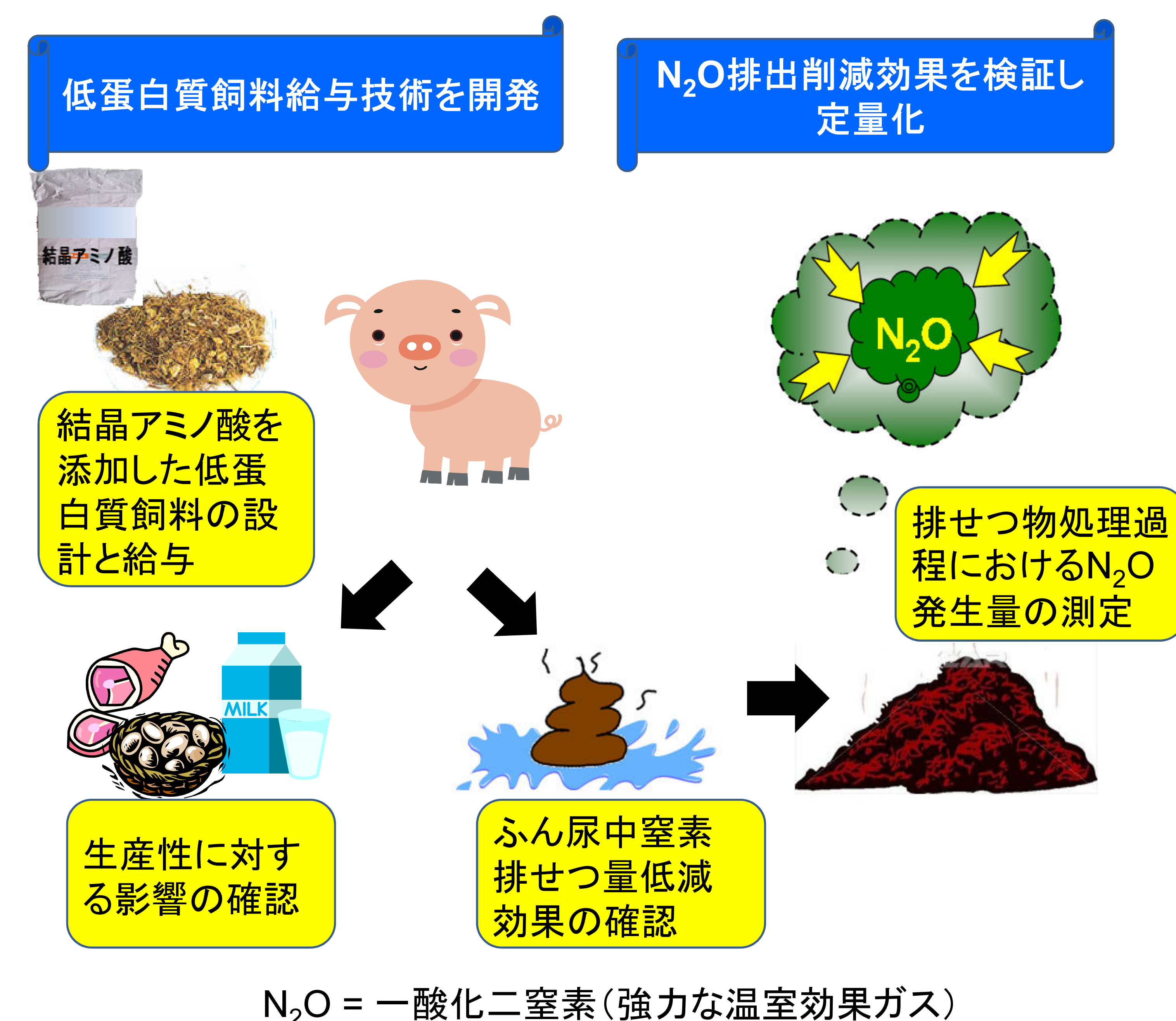
低蛋白質飼料給与による養豚排せつ物管理からの温室効果ガス排出削減



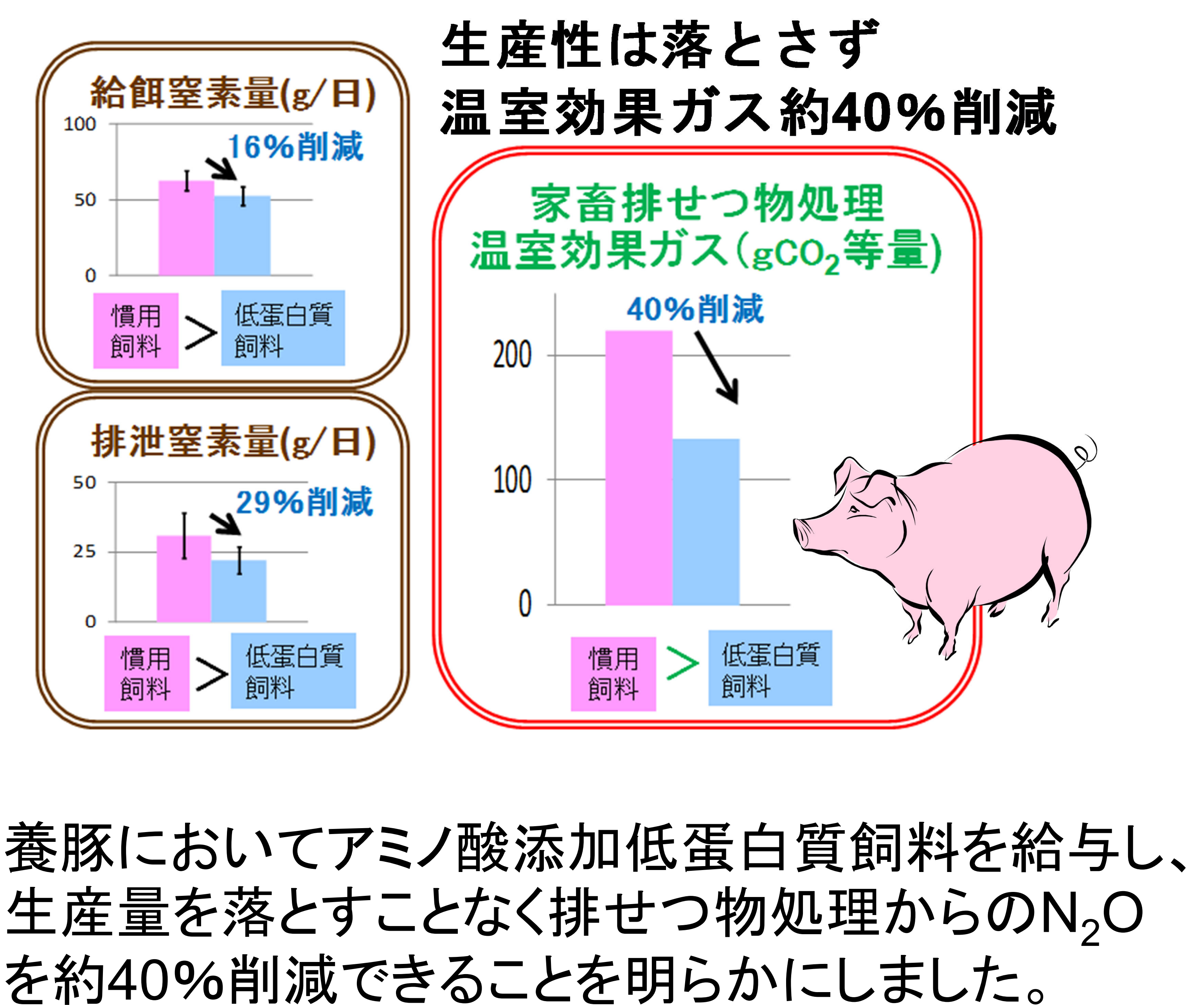
(独)農研機構 畜産草地研究所

蛋白質レベルを下げ、不足するアミノ酸を結晶アミノ酸添加により補った低蛋白質飼料を肥育豚に給与すると、生産性に影響することなく窒素排せつ量を29%、排せつ物管理から発生する温室効果ガスを約40%それぞれ削減でき、さらに富栄養化への影響も削減されます。

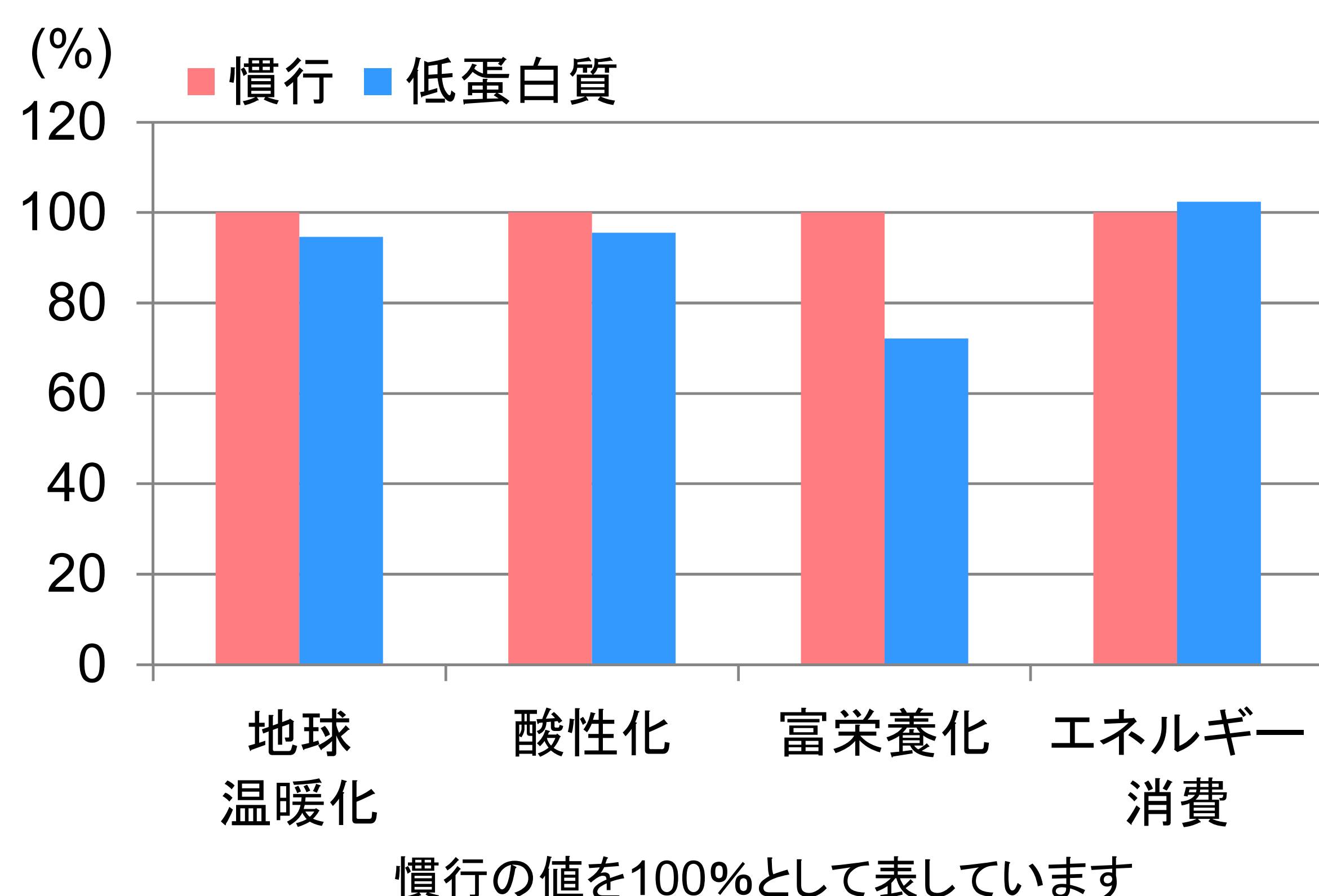
1 低蛋白質飼料による温暖化緩和技術の開発



2 生産性、窒素排泄量、温室効果ガス排出量

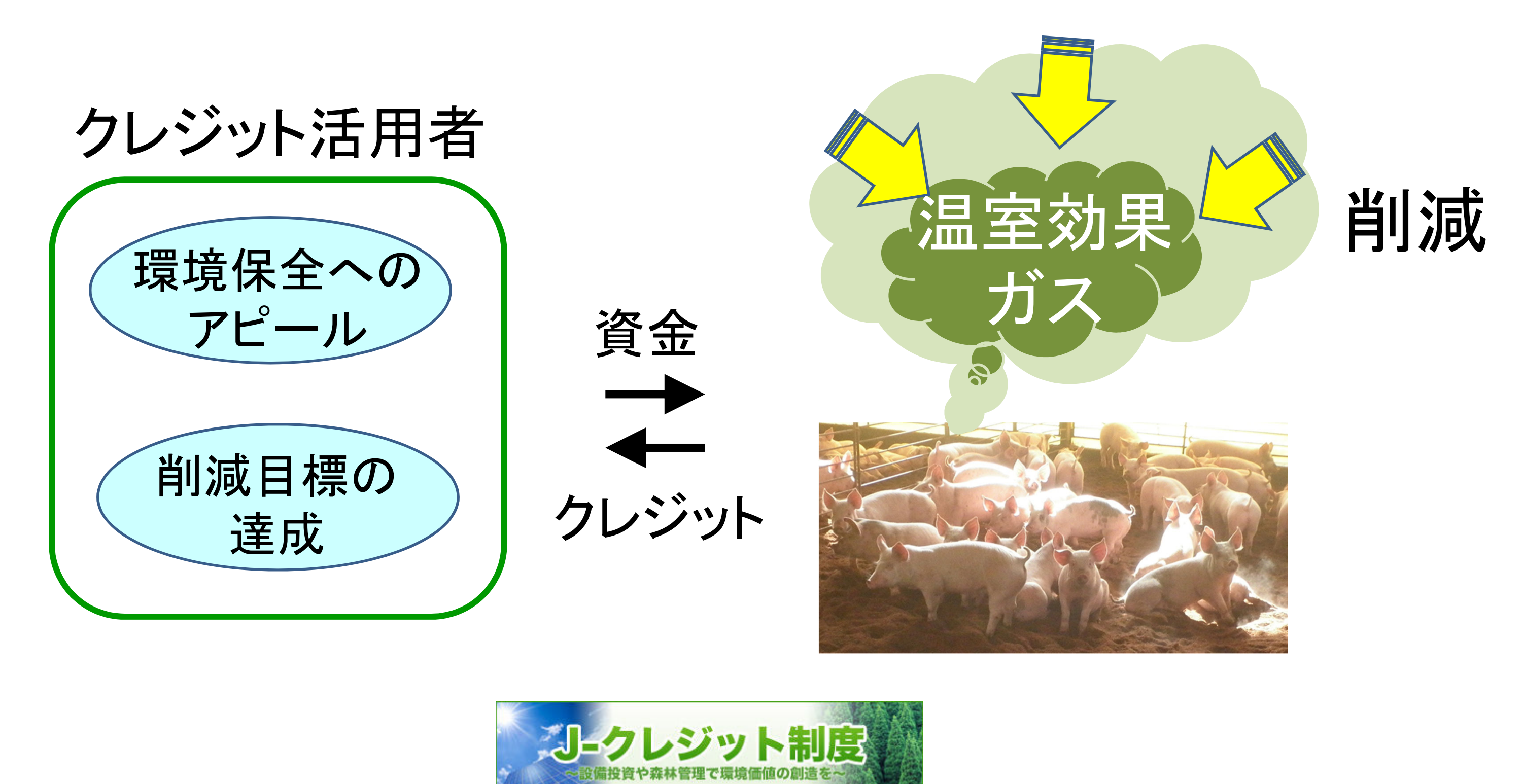


3 低蛋白質飼料と慣行飼料の環境への影響



養豚システム全体を対象とした評価(LCA)の結果、アミノ酸製造を含めても低蛋白質飼料給与の温室効果ガス排出量は小さく、窒素排出量が低下するため富栄養化への影響も28%削減できます。

4 オフセットクレジット制度の活用



本技術は国のオフセット・クレジット制度(J-クレジット)に採用されているため、削減した温室効果ガス量に応じたクレジットを獲得し、販売することができます。

方法論の詳細はこちら→



問い合わせ先(独)農研機構 畜産草地研究所 荻野暁史 e-mail: aogino@affrc.go.jp

詳細は: http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nilgs/2012/210c0_01_45.html